

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		生命科学・生物生産学分野の基礎知識と、生産性の高い持続的農業関連技術と生物資源保全に関する専門知識を修得している。	農工商連携、バイオテクノロジーを活用した一次産業によって、地域社会や国際社会に貢献することができる論理的思考と技能を有している。	食料や医薬となる生物資源の生産に携わる人材として相応しい豊かな人格、教養、倫理観、コミュニケーション力を有し、六次産業化による地域社会の発展や国際社会への貢献を志向する。	一次産業、地域経済に関する総合的な視点から、社会の諸問題の分析、解決に積極的に取り組み、生物資源を利用した新たな産業の創出に貢献できる。	
科目名						
コース専門科目	植物生理学	◎	○	◎	○	1. 植物の形態形成について説明できる 2. 植物の生長制御と様々な環境要因に対する生理応答を調べる 3. 重要な生理応答を制御する代謝や生長調節分子の制御機構、遺伝子やタンパク質などの機能を調べる 4. 植物の重要な分子調節の育種への応用を表現できる
	生物資源環境学			○	◎	1. 生態学と環境学の基本用語を説明することができる 2. 生産フィールド生態系の環境と構成する生物について関係づけることができる 3. 保全されたフィールド環境と農林水産業や農山漁村の多面的機能の関係を説明できる 4. 生産フィールドの生態系サービスや景観デザインの重要性を具体例を挙げて説明できる
	農業科学総論Ⅰ	○	○	○	◎	1. 農業生産を支える機械の種類を把握する 2. 生産基盤整備の事例について説明できる 3. 農業経営や農業ビジネスの多様性を理解する 4. 水産、畜産、林産の基本用語を説明できる 5. 生産生態系保全の重要性を認識する
	農業科学総論Ⅱ	◎		◎	◎	1. 代表的な作物の地域における栽培方法を説明できる 2. 土壌栽培と水耕栽培の違いを理解する 3. 肥料や農薬の役割について説明できる 4. 地域のブランド農産物を説明できる
	森林科学	◎	○		◎	1. 森林の機能と管理方法を理解し、説明できる 2. 木質の化学的、生物学的、物理的性質を理解し、説明できる
	動物生産科学		○		○	1. 畜産の社会的な意義について説明できる 2. 家畜の飼養管理方法について説明できる 3. 家畜の改良技術について説明できる
	水圏生産科学	◎			○	1. 海洋や河川湖沼の環境特性を説明できる 2. 水産増養殖の基本用語を理解できる 3. 主要な水生生物の分類や生態や増養殖手法を説明できる 4. 代表種の味を経験する
	植物生産科学	◎	◎	○	○	1. 育種の基本となる遺伝学を理解し、説明できる 2. 育種および育成品種の管理に必要な植物の生殖様式、繁殖様式を理解し、説明できる 3. 品種改良に利用する育種技術である、交配育種法、変異誘発方法、遺伝子組換えを用いた分子育種法について説明できる
	植物病理学	◎	○		○	1. 植物の病気とはどのようなものか理解する 2. 農場や野外で植物の病気が発生を見つけることができる 3. 植物の病気の予防や治療法について理解する
	森林代謝学	◎	◎		○	1. 木質細胞壁成分セルロース、リグニンの化学構造を説明できる 2. リグニンの生合成機構を説明できる 3. 木材腐朽菌、外生菌根菌とは何か説明できる 4. リグニンの生分解機構を説明できる 5. 木材腐朽菌の代謝の特徴を説明できる
	応用昆虫学	◎		○		1. 昆虫の基本的な特性を理解する。 2. 昆虫の利用や他の生物資源との関わりについて理解を深める。
	水産資源学	◎			○	1. 水産主要種を見分けることができる 2. 漁具漁法を判別することができる 3. 水生生物の資源管理の方策を説明できる 4. 主要種の味を経験する
	植物細胞工学	◎	◎	○	○	1. 植物組織培養による植物体再生技術の基となる分化全能性について理解し、農業への活用事例を説明できる 2. 遺伝子組換え技術の機構および主要技術について理解する 3. 遺伝子組換え技術を用いた有用形質付与の原理と応用について理解する 4. 最新の遺伝子工学的手法による植物細胞工学の状況を理解する
	生物多様性学	○				1. 遺伝子レベルでの生物の多様性の生じるメカニズムについて説明できる 2. 生物多様性にとっての生態系の重要性について説明できる 3. 生物の集団や群集の解析手法について説明できる 4. 生物資源の保全の重要性について説明できる
	生産環境制御システム論	○	○		○	1. 生物の育成方法について説明できる(キーワード:温度、湿度、培地、養液、至適pH、自然光、人工光) 2. 植物の環境応答とその制御について説明できる(キーワード:花芽形成、栄養生長、光周性、色素合成) 3. 生物生産システムにおける最新のテクノロジーについて理解する
	分子生物学	◎	○			1. ゲノム、DNA、RNAの構造と性質を理解する 2. 遺伝情報の複製、転写、翻訳システムを理解する 3. 分子生物学の応用を学ぶ
	畜産加工学	○	○	○		1. 家畜の繁殖に関する基礎知識を理解し説明できる 2. 生殖技術とその原理を理解し説明できる 3. 生殖工学の応用とその展望について説明できる
	地域・生物資源産業学Ⅱ	○	○	◎	◎	1. 経済学の基礎用語・知識を説明できる 2. 市場経済の利点・問題点について説明できる 3. 現実の経済現象について理解・関心を深めること
	フードシステム論	○	◎	◎	◎	1. 現代日本の食料・農業問題をフードシステムの観点から説明できる 2. 現代の食品流通を担うプレーヤーと主要な農産物の流通の動向について説明できる 3. 食の安全・安心問題や地域・農業の新たな対応の展開・背景について説明できる 以上より、現代日本の食と農の問題を身近な問題として捉える力を身に付け、それら諸問題の解決に向けた方策を考える力を養うことを目標とする
	食品マーケティング論	○	◎	◎	◎	1. マーケティングの基礎概念を説明できる 2. 食品流通の概要および現代の食品マーケティングの特徴を説明できる 3. 国内産地のマーケティング活動の現状と課題を説明できる

ディプロマポリシー 科目名		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		生命科学・生物生産学分野の基礎知識と、生産性の高い持続的農業関連技術と生物資源保全に関する専門知識を修得している。	農工商連携、バイオテクノロジーを活用した一次産業によって、地域社会や国際社会に貢献することができる論理的思考と技能を有している。	食料や医薬となる生物資源の生産に携わる人材として相応しい豊かな人格、教養、倫理観、コミュニケーション力を有し、六次産業化による地域社会の発展や国際社会への貢献を志向する。	一次産業、地域経済に関する総合的な視点から、社会の諸問題の分析、解決に積極的に取り組み、生物資源を利用した新たな産業の創出に貢献できる。	
	アグリビジネス起業論	○	○	◎	◎	ラージビジネスを中心としたアグリビジネスを理解する。 1マクロエコノミクスの変化、2抜本的な技術革新、3政策・規制の変化、4食習慣・食生活の変化、5農業・種子・肥料などの上流プレイヤーの変化、6消費者ニーズの変化、7代替品・代替手法の進化、8新参入プレイヤー、9事例紹介などの知識を理解する。
	生物生産システム実習A	◎	○	◎	○	1. 農場における作業の概要を理解する 2. 植林木を育てる基礎作業を修得し、森林生態系の特徴を理解する 3. 沿岸漁場における船上作業を経験し、沿岸生態系の特徴を理解する
	生物生産システム実習B	◎	◎	○	○	1. 生物生産システム学全般にわたる基本的な実験方法や調査方法を理解する。 2. 関連する生物種の種同定方法や標本保存方法を修得する。 3. 遺伝子の解析方法を修得する。 4. DNAの取り扱い方を修得する。
	生物生産システム実習C	◎	○	○	○	1. 生物生産システム学に関する研究事例を説明できる。 2. 生物生産システム学に関する研究方法を説明できる。 3. 生物生産システム学の研究に使う専門機器類の操作ができる。 4. 研究成果のプレゼンテーション技術を身につける。
	他コースの科目	○	◎	-	○	1. 他コースの授業を履修することにより研究に関する幅広い知識を習得する 2. 広い視野を持って研究活動を行うことができる